

| 所属 名前 | チャイルドライン24 出丸 | チャイルドライン24 竹村 | チャイルドライン24 田部 | 青少年育成室 小浜 |
|--|--|--|--|--|
| 視点1 事業実施中、実施後に話し合いが十分になされましたか。 | | | | |
| 視点1-1 ニーズの反映 | ? | はい | はい | はい |
| 視点1-2 ニーズの共有 | はい | ? | はい | はい |
| 特記事項 | 協働相手の行政の方々は、「チャイルドライン24」にのみ眼がいていて、電話のバックにある「子どもが安全で安心して育つ地域社会の実現」のためにネットワークがあることを認識しているのか疑問を感じることもある。 | 十分かどうかは？共有という意味でも確認したい。 | | NPOからの協働事業提案を受けて、NPOと県関係所属による検討ワーキングにより協議を進めてきたものを、関係団体により新しく運営実施団体を設立し、施行により実施しました。 |
| 視点2 事業の目的や事業に関わる意義を確認できましたか。 | | | | |
| 視点2-1 公共性と行政関与 | | | | |
| ・不特定多数の利益 | はい | はい | はい | はい |
| ・地域課題の解決、社会変革 | ? | はい | はい | はい |
| 視点2-2 協働の妥当性 | はい | はい | はい | はい |
| 特記事項 | 課題解決や社会変革に役立ったかを言うには事業実施の実績はまだ少ない。相談電話の実施は本年8月の最終週から取り組み始めたところであり、次の段階を議論するためには、もう少し相談電話実施の実績を積む必要がある。 | 行政と民間の協働でなければできなかった展開が出来たと思う。でも、この事業の将来については、行政との間に開きがある。このように1～2年単位でしか協働が考えられない行政の限界が見え、続けていかなければならないこの事業に対して民間側として先が見えない不安がある。 | | この事業を実施する上では、子ども相談電話に関する専門的な知識・経験や人材を有するNPOに担っていただくことが不可欠でした。 |
| 視点3 それぞれの役割が明確に整理されましたか。 | | | | |
| ・役割分担 | いいえ | ? | はい | はい |
| ・責任分担 | はい | ? | はい | はい |
| ・情報共有 | いいえ | ? | はい | はい |
| ・問題発生時の対応 | はい | ? | ? | はい |
| 特記事項 | この事業を実施していくための事務局人件費を県が負担しないことについてNPOが提示した疑問について、最後まで明確な理由が示されなかったことは残念であった。人件費を市民に持たせたまま協働事業を継続させようとするのは容認しがたい。 | 「新しい時代の公」で掲げていることと実際に事業を行っている現場とでは大きく隔たりがあるように思う。現場で見えてきた課題を提案し、少しずつでも変えていく努力が担当者との間では出来たと思う。ただ、「新しい時代の公」の色合いが、行政側にとつての一方的な役割分担に感じられることが多くなってきた。 | ○問題発生時の体制：設問の本意を今計りかねています。どうい問題かによって出来ているとも出来ていないとも言えます。 | 役割等については、協定書及び契約書で規定しました。情報交換については、ネットワーク会議及びメーリングリストで情報交換を行いました。 |
| 視点4 事業を計画的に進めていくことができましたか。 | | | | |
| ・事業の目的 | はい | はい | はい | はい |
| ・地域ビジョンと事業の方向性 | はい | はい | はい | はい |
| ・実施計画と収支計画 | はい | はい | ? | はい |
| ・実際にかかる費用分担と予算管 | いいえ | ? | ? | ? |
| ・スケジュールの管理と進捗状況 | はい | はい | ? | はい |
| ・事業の進捗を客観的に判断する具体的な成果指標 | ? | はい | 未記入 | はい |
| ・成果物の帰属 | ? | はい | 未記入 | はい |
| ・事業完了時期 | ? | はい | ? | ? |
| ・事業終了後の方向性の共有 | ? | ? | ? | ? |
| 特記事項 | 相談電話の実施に関して、県民局会議室等を提供してもらっており、事業開始時点から見るとこうした理解が得られるようになったことは評価できる。どの関係部署も、電話の実施に関心を示さないのはなぜだろうか。 | 実際にかかる費用分担は、一方的に任されているように感じられる。今後の方向性は、18年度に関しては、一定の方向が共有されているが、19年度以降は、不透明なままである。 | 3,4,5番目については、大きくは出来ています。どの部分に対して答えればいいのでしょうか。7番目については、帰属はネットワークみえにと確認していると思いますが、問いがあまりにもすべてですが記入者がどう判断したらいいのかわかりかねることが多すぎます。8, 9番目については、まだ話し合っていないと思っています。 | 事業実施の上では反映しましたが、事業の完了時期や事業終了後の方向性についての考え方について、認識に差があるように思われました。 |
| 視点5 参加・参画の体制づくりはうまく進みましたか。 | | | | |
| 視点5-1 当事者性 | いいえ | ? | ? | はい |
| 視点5-2 対話 | いいえ | ? | ? | はい |
| 視点5-3 意思決定 | いいえ | ? | ? | はい |
| 視点5-4 | | | | |
| ・役割分担 | いいえ | ? | はい | はい |
| ・責任分担 | はい | ? | はい | はい |
| ・情報共有 | いいえ | ? | はい | はい |
| ・問題発生時の対応 | はい | ? | はい | はい |
| 特記事項 | 話し合いの場に意思決定者の参加がないことは対等な関係とは言えない。 | 実際にかかる費用分担は、一方的に任されているように感じられる。今後の方向性は、18年度に関しては、一定の方向が共有されているが、19年度以降は、不透明なままである。 | 5-1できているところといないところとあると思っています。 5-2できているところといないところとあると思っています。 5-3できているところといないところとあると思っています。 | ネットワーク会議での検討に基づき実施することができました。 |
| 視点6 事業実施段階で欠けていた視点や、今後必要とされる仕組み、制度等はないでしょうか。 | | | | |
| 特記事項 | 協働事業の対等性は、行政の担当部署がその部署の事業として捉えていることで担保されると考えるが、担当部署が組織として関わっているとは言いがたいのが実情である。関わっている職員が熱心なだけで、組織が関わっていると思えない部署がある。行政の仕組みがそのために有効に働くよう変わらなければ質の高い協働は望めない。また、事業を実施していくために必要な人件費は、条件を整えて公費で負担することを考えるべきである。 | 「新しい時代の公」における行政の役割も一つの主体として捉えること。協働事業に於ける行政の関わりを最初から年数制限をつけないこと。協働事業に於ける人件費の必要性を行政は認識すること。(この事業では、一方的に人件費に関しては民間持ちであることが前提となってきた。)行政の各セクション間で予算協議を柔軟にしていくことなどなど、こういったことの仕組みはあっても使えない仕組み、制度はいくら創っても意味がありません。一つ一つの事例を創っていくしかないと思います。 | 現行の体制の中ではおさまりに足りない新しい試みに対して、十分な受け皿ができていないように感じています。特に意識改革が課題と思います。 | 民間部門を支える資金の仕組みを検討する必要があると思います。 |